

3

診療報告

内

科

診療局長：谷水 将邦

Ⅰ 診療体制

令和7年度は、谷水診療局長、久代主任部長、谷口主任部長、相見部長、嶋崎医長、大内医員の5名体制で内科の診療に当たりました。

Ⅱ 診療実績

令和7年度の外来延べ患者数は22,407人（前年度22,983人）でした。入院延べ患者数は34,558人（前年度29,695人）で平均在院日数は20.9日（前年度18.3日）でした。

専門外来としては、血液（毎週火・木曜日：木曜日

は岡山大学からの派遣医師）、糖尿病（毎週金曜日）、消化器（毎週火曜日）、腎・代謝（毎週火・木曜日）、内分泌・代謝（毎週金曜日）、消化器センター（毎週月・火・木・金曜日）、漢方外来（毎週木曜日午後）、禁煙外来（毎週木曜日午後）の診察を行ってまいりました。

引き続き、今後も総合診療科の先生方と協力しながら持続可能な内科専門診療を行い、地域に貢献できるようにと考えています。

総 合 診 療 科

副院長：足立 誠司

Ⅰ 診療体制

令和7年度は、足立診療局長、庄司部長、懸樋部長、野崎部長、櫻井部長、赤松医長、杉山医員、松本医員、苗村医員、宮里医員の10名体制で総合診療科の診療に当たった。4月より県派遣医師として松本先生、生協病院内科プログラム研修として苗村先生が着任し、12月より非常勤医師として宮里先生が着任した。

Ⅱ 診療実績

令和7年度の外来延べ患者数は、2,281人（前年2,263人）、入院延べ患者数は25,092人（23,092人）であった。

絆ノート届け出新規登録患者は、5件（前年6件）であった。

Ⅲ カンファレンス

- ① PBL(Problem Based Learning)：初期研修医を中心に毎週火曜日7:45からカンファレンスを実施
- ② 総合診療科カンファレンス：毎週月、火、木曜日の17:00-18:00に外来、入院患者に関するカンファレンスを実施
- ③ 内科カンファレンス：毎週水曜日17:00-18:00
- ④ 多職種カンファレンス：毎週水曜日14:00-15:00に倫理的な問題で悩ましい症例についてのカンファレンスを実施

Ⅳ 院内外活動

鳥取大学、岡山大学、自治医科大学をはじめ複数の医学部医学生実習の受け入れを積極的に行った。

また、市民医療講演会、各依頼講演、診療支援、研修会開催など多数行った。さらに、行政や医師会をはじめとする各職能団体と交流した。

メンタル・クリニック

診療部総括部長：山根 享

I 人事

山根医師1名体制で診療に当たりました。

II 診療実績

外来診療は、毎週月～金曜日に診察を行っております。

令和7年度の外来延べ患者数は2,377人でした。

メンタルクリニック外来での通院精神医療、リエ

ゾン活動（身体疾患の治療で一般病棟に入院中の患者が抱える心理的・精神的問題に対するサポート）を行なっています。具体的には、認知症ケアチーム活動（認知機能低下の結果、二次的に生じる行動や心理面の変化へのサポート）、緩和ケアチーム活動（がん患者が抱える強い不安や不眠うつ状態などの精神的な苦痛を和らげるサポート）などです。

循環器内科

診療部主任部長：森谷 尚人

文責 医長：田淵 真基

I 人事

森谷尚人部長、田淵真基部長、戸杉夏樹部長、中村悠大医長の4名体制で診療に当たりました。

II 診療実績

前年度に引き続き月、水、金曜日を外来、火、木曜日を検査・治療日としております。外来は田淵、戸杉、中村がそれぞれ初診専任と再診専任に分かれて担当しました。

外来患者のべ人数は3,596人、入院患者のべ人数は4,523人、冠動脈CT件数は48件、心臓カテーテル検査数は164件（緊急41件）、経皮的冠動脈形成術/ステント留置術件数は67件（緊急47件）、経皮的末梢血管形成術件数は1件（緊急0件）、ペースメーカー手術件数は15件でした。

令和4年4月より、心臓リハビリテーション指導士による外来心臓リハビリテーションを開始しました。月・水・金曜13-16時に予約制で実施しています。また、令和6年より心臓リハビリテーション実施患者さんを対象に健康作りの取り組みである「ハートウォーク」を行っております。

III カンファレンス

- ①毎週月曜16時より予定心臓カテーテル検査・治療患者に関するカンファレンスを医師・看護師・臨床工学技士で実施
- ②毎週火曜16時より循環器内科カンファレンス（入院・外来患者に関するカンファレンス）を実施
- ③毎週月曜15時より、リハビリテーション実施患者・心不全療養指導対象患者に関して多職種チームによる回診・カンファレンスを実施
- ④月一回心臓サポートチーム（循環器内科医師、総合診療科医師、看護師、理学療法士、作業療法士、薬剤師、管理栄養士、臨床工学技士、臨床検査技師、メディカルソーシャルワーカー、臨床心理士）によるカンファレンスを実施

外

科

病院長：大石 正博

Ⅰ 人事

人事面では、大石病院長、小寺診療局長、水野部長、宮本医長、松本医長の5人で外科診療を行いました。

Ⅱ 診療実績

外来は、延べ患者数9,712人、一日あたり患者数40.1人でした。入院は、延べ患者数11,037人、一日あたり患者数30.2人、平均在院日数14.9日でした。

Ⅲ 手術実績

令和7年1月から12月までの間に、NCD登録392件、そのうち鏡視下手術が198件でした（表1）。

Ⅳ 学会実績

2件の誌上発表、17件の学会発表を行いました。

表1 消化器手術実績（令和7年1月～12月）

全身麻酔/腰椎麻酔			全身麻酔	鏡視下手術 (全麻の内数)	腰椎麻酔
消化管	食道	悪性腫瘍（頸部）			
		悪性腫瘍（胸部）			
		悪性腫瘍（腹部）			
		良性疾患			
	胃・十二指腸	胃悪性腫瘍（幽門側胃切除術、PPG）	6	6	
		胃悪性腫瘍（噴門側胃切除術）	1	1	
		胃悪性腫瘍（胃全摘術）	3	3	
		胃悪性腫瘍（胃部分切除術（LECS含む））	5	5	
		その他	6	5	
	小腸	悪性腫瘍（小腸癌・悪性リンパ腫・GISTなど）			
		良性疾患（UC・クローンなど）	1	1	
	虫垂	虫垂炎	16	16	
		その他（虫垂腫瘍、腹膜儀粘液腫など）	4	3	
	大腸	結腸悪性腫瘍	29	28	
		直腸悪性腫瘍	29	27	
		良性疾患（UC・クローン・憩室炎など）	6	5	
	肛門	悪性腫瘍			
		良性疾患（痔・直腸脱など）	4		3
	ヘルニア		71	19	4
	その他（癒着性イレウス、ストマ造設など）		42	12	
肝胆膵	肝・胆	亜区域・区域切除以上（外側区域除く）	17		
		胆道再建を伴う肝切除			
		部分、外側区域切除	5	2	
		良性胆道疾患	64	61	
		その他	2		
	膵・十二指腸	膵頭十二指腸切除術（PD）	5		
		膵体尾部切除術（DP）	4	3	
		その他	2	1	
	脾				
	肝胆膵高難度手術（合計）		26		
その他（腎移植含む）		10		9	
小計			332	198	16
総手術件数（局麻除く）				348	
腹腔鏡総手術件数（局麻除く）				198	
NCD登録症例数（NCD入力締切までに登録予定の症例数を含む）				392	

表2 小児科手術実績（令和7年1月～12月）

全身麻酔/腰椎麻酔		全身麻酔	鏡視下手術 (全麻の内数)	腰椎麻酔
小児	ヘルニア・虫垂炎（16歳未満の手術）	2	1	
	その他	1		
小計		3	1	0
総手術件数（局麻除く）		3		
腹腔鏡総手術件数（局麻除く）			1	

表3 乳腺・内分泌手術実績（令和7年1月～12月）

乳腺悪性腫瘍	乳腺良性腫瘍	甲状腺腫瘍	その他	乳腺内分泌外科手術総数
28	3		1	32

脳 神 経 外 科

診療部主任部長：谷浦 晴二郎

I 人事

令和7年度は谷浦、赤塚の2人で診療を行った。非常勤として、黒崎医師（頭蓋底外科外来）・坂本医師（血管内治療外来）が診療を行った。

II 診療実績

外来診療は月・水・木・金曜日の1診体制で、頭蓋底外科外来は第1火曜日、血管内治療外科は第4月曜日に診療を行った。

外来延べ患者数1,269人、入院延べ患者数1,507人、手術件数32件（脊椎手術9例含む）であった。

III 学会発表

「shunt離断の2例」

谷浦 晴二郎

第32回鳥取県脳神経外科懇話会（2025.7.12／鳥取県）

整 形 外 科

医長：根津 智史

I 人事（敬称略）

令和7年度は、森下嗣威（S62入局）の退職に伴い、根津智史（H24）が部長に就きました。河村涌志（H29）と新たに井上智博（H30）、山下涼介（R5）が就任し、中河直輝（H31）は鳥取赤十字病院、市場嶺次郎（R5）は津山中央病院への異動となっています。

II 診療実績

令和7年度の外来延患者数は12,135人（1日当たりの延患者数56.9人、1日あたり初診患者数6.7人）、入院延患者数は18,865人（1日延患者数51.7人）、平均在院日数17.8日でした。外来延患者数は前年日で0.89倍、入院延患者数は0.90倍となりました。

外来診療は、手術日でも毎日新患者の対応が可能となっております。手術日以外では、再診を含めて3～4診体制で診療を行い、地域の先生方から多くの患者様のご紹介を頂いております。

平日日勤帯の救急患者紹介等につきましては、交代制で救急担当医を割り当て可能な限り受け入れが出来る体制を整え、骨折などの早期加療が必要な患者様に対しても初期対応から手術までの円滑な診療体制を心がけて診療に務めております。

令和5年4月より運用を開始した大腿骨近位部骨折症例に対する骨粗鬆症リエゾンチームですが、整形外科医師・整形外科外来看護師・薬剤師・理学療法士・栄養療法士の各1名がチームとなり術後患者さんのベッドサイドへ骨粗鬆症治療導入開始のため引き続き回診に当たっております。また回復期病院へ転院となった患者さんに対する術後再診の場として毎週木曜日午後に骨粗鬆症外来としての枠を設け、骨粗鬆症治療導入開始から投薬の継続状況、術後ADLや骨塩定量検査による術後経過の調査に合わせまして、新規骨折予防に対するコンプライアンス改善に積極的に取り組んでおります。

III 手術

令和7年度の年間手術件数は1,391件で、前年比1.18倍でした。

人工関節領域では、人工股関節全置換術（THA）、人工膝関節全置換（TKA）に新たに2台の人工関節ロボットが導入され、これにより症例ごとに異なる適

切なインプラント設置位置が術中にリアルタイムで確認でき、更なる治療成績の向上が期待されます。また、逆行性肩関節全置換術（RSA）の使用資格を根津が取得し、当院でも症例に応じてRSA手術を開始しております。

外傷手術では高齢者による脆弱性骨折が中心であるため、麻酔科医や手術室と密な連絡を取り合い、早期手術を継続することが出来ております。これまでには保存治療が選択され、長期臥床が余儀なくされていた仙骨骨折や恥骨骨折などの骨盤輪脆弱性骨折に対しても、ナビゲーションシステムを使用した低侵襲下でのスクリュー固定を行うことで早期離床を図るなど新たな試みも開始しています。

IV カンファレンス

毎週水・金曜日の朝7時30分より術前・術後の症例プレゼンテーションを中心に、稀少な症例や治療方針に苦慮する症例などを提示し、整形外科医全員で検討を重ねた上で治療方針を決定しています。

産 婦 人 科

診療部部长：長治 誠

I 人事

長年にわたり、当院の診療に貢献された清水健治先生が5月に逝去され、長治と非常勤医師の高木で診療を行った。

II 診療実績

4月より清水先生に子宮がん検診業務のすべてを行っていただいていたが、逝去に伴い検診業務は大幅に縮小、変更せざるを得なくなった。

外来診療は毎日1診体制となり、月曜日、金曜日は午後診療も行った。また月曜日、火曜日午後はオンライン診療（情報通信機器を用いたオンライン診療）も行った。

手術は子宮鏡手術など1人でできる手術に限られた。10月には、山陰初となる細径子宮鏡（組織回収システム）を導入した。

III その他

鳥取県立中央病院、鳥取赤十字病院、開業医とともに、鳥取県東部圏域の産婦人科診療にかかわる意見交換会を、3か月毎に開催している。

IV 学会発表・論文・講演等

1. がん患者のQOL向上を目指したコミュニケーション技術研修会

日本サイコオンコロジー学会 主催、日本緩和医療学会 共催

ファシリテーター：長治 誠

2025年9月6日（土）～7日（日） 国立がん研究センター

2. 第9回岡山がん患者のQOL向上を目指したコミュニケーション技術研修会

中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアム 主催

ファシリテーター：長治 誠

2026年2月28日（日） 岡山大学鹿田キャンパス

小 児 科

診療部総括部長：長石 純一

I 人事

令和7年3月末で奈良井哲医師が退任し、4月から長石純一医師、小林裕貴子医師の常勤医師2名体制で診療を行っています。平成27年度から公認心理師1名も常勤スタッフとして加わっています。

II 診療実績

外来は、延べ患者数3,806人で、午前中は発熱などの一般小児外来を、午後は予約制で予防接種、乳幼児健診、小児内分泌外来（小児糖尿病を含む）、思春期外来（小児心身症を含む）、小児循環器外来（月1回）を行いました。

入院は、延べ患者数1,145人（1日あたり平均患者数3.1人、平均在院日数8.0日）でした。

発達障がい児及び家族の支援のため、ペアレントメンターに係わる相談事業に参加しています。

引き続き、新生児の育児不安に対する支援事業にも参加しています。

これからも、地域の皆様の信頼を得て、子どもたちに安心して受診していただける小児科になることを目標に、スタッフ一同協力して歩んでまいります。

III 学会発表・講演会等

<長石 純一>

「小児のマイコプラズマ肺炎—UP DATE—」

鳥取県東部小児科医会（2025.5.21／鳥取市）

「みんなの心と身体は宝物」

青谷高等学校 課外授業（2025.6.12／青谷町）

「代理によるミュンヒハウゼン症候群～7年間の経過～」

第32回日本小児心身医学会中国四国地方会 会長講演（2025.6.22／鳥取市）

「思春期の子どもたちとの接し方 起立性調節障害など」

青谷高等学校 先生方へのレクチャー（2025.10.7／青谷町）

「ライフステージ別の療育指導① -乳幼児・学童・思春期」

令和7年度糖尿病療育指導士講習会（2025.10／鳥取市）

「小児の自死について」

鳥取市立病院 養育支援についての研修会（2026.2.17／鳥取市）

「思春期の子どもたちの心と身体は宝物」

第21回若手医師のための家庭医療学冬期セミナー
講演 日本プライマリ・ケア連合学会（2026.2.22／長崎市）

眼

科

診療部部长：蔵増 亜希子

I 人事

2025年度は蔵増・岡本医員・高須医員の3人体制で診療業務を行いました。

II 診療実績

外来診療は月～金の午前一般外来、火・木の午後特殊外来（主に術前検査・IC・小児の診察）、月・水・金の午後に視野検査・網膜電図など、昨年度と同様に行いました。

今年度から外来処置室にて硝子体内注射が可能になり患者様の負担も軽減できました。

今まで診察室前の通路で行っていた視力検査ですが、処置室とその隣の部屋（＊使用していない耳鼻科の元第2診察室）を眼科用に開放していただきましたのでそちらに移動できました。以前より広くなった通路のおかげで車椅子での診察室への出入りが楽になり（それでもまだ狭いですが）、視力検査もその都度中断する必要がなくなりました。

III 手術

月・火・水の午前枠と月・水・金の午後枠で行いましたが、手術件数が増加しており、枠もすぐに埋まってしまう。緊急対応などで手術日以外（火・木の夕）に手術が入ることも多くなっています。

硝子体注射はほとんど外来に移行しましたが、白内障手術はまだ半年以上待ちです。

今年度は白内障手術1,163件、緑内障手術94件、硝子体手術73件、眼瞼の手術15件、硝子体注射＋球後注射960件と手術件数も増加しています。

IV 来年度に向けて

視野検査専用の部屋（暗室）がないため、診察同日に検査ができないなど、スペースの問題は、まだまだありますがここに書かせていただいた問題は毎年少しずつ改善されています。

ですが、耳鼻科の20年間不使用の元診察室・処置室を借りてなんとかしているという結局はその場しのぎの状況ですので、耳鼻科復活で患者数が増加したら問題が起きるのは明らかです。根本的な解決策を期待します。今後眼科診療・手術は精密器機の性能に頼る部分がさらに大きくなると予想され、よりよい器機の導入も必須と考えます。市内～県内の網膜

硝子体・緑内障手術対応施設が少ないため、難症例等はほとんど当院で対応できるようにスペースもですが医師・スタッフ増員等もできればと考えています。

皮膚科

医員：川本 雅也

I 人事

令和7年度は川本が診療を行いました。令和2年度10月より1名体制で診療を行っています。

II 診療実績

外来診療は昨年度と同様に月曜日～金曜日の午前中で行っており、令和7年度の皮膚科外来延べ患者数は3,843人でした。入院延べ患者数は1,367人であり、1日平均入院患者数は3.7人でした。年間手術件数は24件でした。

外来診療では予約患者様を優先して診療し、基本的には他院からの紹介患者様も地域連携を通した予約を取っていただいておりますが、特に当日受診された緊急性の高い患者様をはじめとした当日受診例にも可能な限り対応しております。症状が安定した軽症患者様はかかりつけ診療所への逆紹介も適宜行い、病診連携を継続いたします。

なお、昨年からの変更点として、アトピー性皮膚炎や蕁麻疹、乾癬に対する生物学的製剤の継続投与を行っているものの、導入を行っておりません。必要時には他院をご紹介し、導入していただいたうえで、当院で処方を継続させていただいております。

また、院内では褥瘡対策チームとして皮膚排泄ケア認定看護師と共に褥瘡・スキンテア回診を毎週3日行い、褥瘡対策・治療を行うとともに、その他の挫創等の創傷処置にも力を入れています。

III 来年度の診療体制

令和8年度は4月より着任した河野が診療を行います。

泌 尿 器 科

診療部主任部長：倉繁 拓志

I 人事

2025年度は、外来診療は倉繁、平田、宗田、松島の4名の常勤医体制であたっています。

早田が非常勤として週1回、木曜日午前に外来を担当しています。

II 診療実績

外来診療は基本的に、手術日の木曜日が予約外来のみとなっている以外は、2または3名の医師の診察で積極的に新患を受け入れています。水曜日の午後は女性泌尿器科外来で、女医の松島がほぼ全例、女性患者さんのご希望に沿って診療しております。

III カンファレンス

常勤医4名で、毎週火曜日の午前に行っています。全身麻酔の主たる手術は火曜日、木曜日に予定することが多いために術前カンファレンスはもちろん、治療方針の決定が困難な症例なども提示し、討議しています。

IV 手術

2025年1月に体外衝撃波結石碎石術（ESWL）の最新機種を導入、これまで週2回水曜日と金曜日の午後の手術日を、月曜日の午後も開始し、週3回行っています。新機種により、破碎効率、治療成績が上がり、2024年は87例施行しましたが、2025年は更に症例が増えると予想されます。

月曜日、火曜日、木曜日、金曜日の午後が手術室での手術日で、月曜日は主に前立腺針生検、経尿道的手術などを施行、それ以外の曜日は主に腹腔鏡手術やロボット手術などを行っています。

2022年2月にロボット支援手術を開始し約2年が経過、2024年は67例執刀し、2024年末までに累計173例に達しました。2024年の症例の内訳は、悪性腫瘍の前立腺癌40例、腎癌3例、腎盂尿管癌4例、膀胱癌4例、良性疾患の骨盤臓器脱16例でした。

そのほか、当院の特徴である、レーザーを使用した尿路結石に対する経尿道的結石碎石術（TUL）が130例、前立腺肥大症に対する経尿道的前立腺レーザー切除術（HoLEP）が49例でした。

表1. 泌尿器科手術統計

	2024年	2025年
総手術件数（ESWL、前立腺生検を含む）	851	941
全身麻酔	337	390
脊椎麻酔	47	19
副腎の手術		
腹腔鏡下副腎摘除術	3	2
腎・尿管の手術		
腎悪性腫瘍手術（ロボット補助下）	1	1
（腹腔鏡下）	1	3
腎部分切除術（ロボット補助下）	2	9
（腹腔鏡下）	0	0
腎尿管全摘術（後腹膜鏡補助下）	4	4
（ロボット補助下）	2	6
体外衝撃波結石碎石術（ESWL）	87	95
経尿道的結石碎石術（TUL）	130	88
膀胱の手術		
膀胱全摘術（ロボット補助下）	4	9
（腹腔鏡下）	4	2
経尿道的膀胱腫瘍切除術	67	76
尿路変更術		
回腸利用代用膀胱(Studer変法)	0	0
回腸導管	2	6
尿管皮膚瘻	2	3
前立腺の手術		
前立腺全摘除術（ロボット補助下）	40	37
経尿道的前立腺レーザー切除術（HoLEP）	49	51
前立腺生検	104	135
陰嚢内容の手術		
高位精巣摘除術	2	2
骨盤内臓器脱の手術		
仙骨脛固定術（ロボット補助下）	16	19
（腹腔鏡下）	0	0

V 学会発表

「2024年鳥取市立病院泌尿器科手術統計」

松島萌希、宗田大二郎、平田武志、倉繁拓志、早田俊司

第342回日本泌尿器科学会岡山地方会（2025.2.22／岡山市）

「A Comparative Evaluation of the Clinical Outcomes of HoLEP in Patients Aged <60 Years and ≥90 Years」

Takushi Kurashige, Daijiro Souda, Moegi Matsushima, Takeshi Hirata

第112回日本泌尿器科学会総会（2025.4.18／福岡市）

「PSA低値で診断に至った遠隔転移を伴う前立腺癌の一例」

松島萌希、宗田大二郎、平田武志、倉繁拓志、早田俊司

第141回日本泌尿器科学会山陰地方会（2025.6.21／米子市）

「同時期に発生した左尿管癌と右腎癌に対する治療法の考察（尿路変更も含めて）」

倉繁拓志、宗田大二郎、松島萌希、平田武志

第344回日本泌尿器科学会岡山地方会（2025.9.20／岡山市）

「当院における骨盤臓器脱（POP）症例の患者背景および治療法の検討」

倉繁拓志、宗田大二郎、松島萌希、平田武志

第77回西日本泌尿器科学会総会（2025.11.13／高知市）

「尿路結核の1例」

倉繁拓志、宗田大二郎、松島萌希、平田武志

第142回日本泌尿器科学会山陰地方会（2025.11.22／出雲市）

「当院での根治切除不能な尿路上皮癌に対するEnfortumab vedotin + Pembrolizuma併用療法（EVP療法）の初期治療成績」

宗田大二郎、松島萌希、平田武志、倉繁拓志

第345回日本泌尿器科学会岡山地方会（2025.12.13／岡山市）

放 射 線 科

副院長：橋本 政幸

I 人事

放射線科では2名の医師により各種画像診断、インターベンショナルラジオロジー（以下IVR）、放射線治療を担当しています。そのほか、ドック胸部X線読影の他、脳ドック、膝ドック、PET/CT検診などの健診業務も担当しています。

II 診療実績

2025年4月1日から2026年3月31日の間に作成した診断レポートは、胸部X線4,147件、マンモグラフィー675件、CT 9,614件、MRI 3,671件、核医学検査 167件、PET/CT 231件、IVR 186件です。2025年3月よりマイクロ波凝固療法のジェネレーターを導入し、肝細胞癌や転移性肝癌の局所療法に活用しています。

外来診療では当科外来患者様の他、院外からの紹介患者様の診察を行っています。当直医の協力を得ながら平日夕方17時から18時まで開業医さんからのCT検査（トワイライトCT）を、また、患者サポートセンターの協力を得ながらパートナーシップCT、MRI（画像診断機器の共同利用）も診断レポート作成し対応しています。

III 学会発表・論文等

<学会発表>

「子宮筋腫に対する子宮動脈塞栓術後に著明な筋腫増大をきたした一例」

第38回中国四国IVR研究会

2025年10月31-11月1日（岡山市）

鳥取市立病院 放射線科 橋本政幸、松木 勉

産婦人科 長治 誠

麻 酔 科

診療部部長：樋口 智康

I 人事

令和7年度は、浅雄保宏、樋口智康、清水貴志、中村将志の4名による体制であった。

II 診療実績

手術件数は総数3,468件（前年4,002件）、麻酔科管理症例1,644件（同1,703件）、うち全身麻酔症例1,503件（同1,532件）と、麻酔科管理症例に関してはほぼ前年並みであった。麻酔科管理症例における全身麻酔の割合も昨年度と同様90%以上となった。

救急車受け入れ体制は、これまで平日午前中は麻酔科が担当していたが、令和7年度は、麻酔業務の増加に伴い、火、木、金曜日の午前中のみ担当した。令和7年1月から12月までの当院の救急車受け入れ件数は2,583件（前年2,701件）であった。東部圏域全体の救急車受け入れ総数は11,356件（同11,405件）で、当院の受け入れの割合は22.7%（同23.7%）であった。

救急救命士の実習は、気管挿管実習（硬性喉頭鏡による挿管実習2名、ビデオ喉頭鏡による挿管実習4名）、就業前実習、再教育実習を受け入れ、いずれも予定通り実施した。

令和8年3月末の1名退職に伴い、来年度は1名減員となるため、業務体制のさらなる工夫が必要となる。

III 学会発表・論文等

<学会発表>

「麻酔導入時に発症したKounis症候群の一例」

日本麻酔科学会 中国四国支部学術集会

令和7年9月6日 米子市

中西寿美代ほか

<誌上発表>

なし

<院内の講習会、講演会の講師派遣>

- ・院内ICLSコース 1回 コースディレクター：浅雄
- ・高校生対象医療体験 令和7年8月3日 講師：浅雄
- ・輪状甲状腺膜切開キット使用訓練 令和7年9月9日 講師：浅雄

<その他>

- ・東部ICLSコース 4回
コースディレクター：浅雄（2回）、インストラクター：浅雄（2回）

- ・東部ICLS指導者養成ワークショップ 令和7年12月6日 コースディレクター：浅雄
- ・東部エマルゴコース 令和7年10月12日 インストラクター：浅雄

歯

科

医長：青柳 浩明

I 人事

医師

常勤歯科医師1名（青柳浩明）が勤務しています。
歯科衛生士

常勤歯科衛生士は加藤真由美、塩聡美、前田奈々の
3名が勤務しています。

II 診療実績

歯科は、院内の医科入院患者への口腔内の管理及び食事の支援（摂食支援）を通じて栄養状態や全身状態の維持・改善を目的とした診療を行っています。当院の医科入院患者および医科外来患者を診察しています。外来診察、病棟への回診を行っています。

全身状態が安定している患者に対しては、歯科医師会所属の歯科医師と共に継続的な管理ができるように連携をしています。通院が困難な患者・地域住民に対しては、かかりつけ訪問歯科医院からの訪問歯科診療が必要です。当院入院患者、外来受診患者のみならず、地域の本人・家族やケアマネージャーから相談のあった場合に、鳥取県東部歯科医師会の在宅医療連携推進室の制度の活用を勧めることによって、かかりつけ訪問歯科を持つことへとつなげています。また、医科の外来患者に対する外来診察を主体とせず、当院入院中の患者の全身状態や治療内容によって紹介を受け診察をしています。

外来の延べ患者数8,491人（1日あたり延べ患者数35人、1日あたり初診患者数5人）でした。

高齢者総合評価の資格を有している歯科医師による入院高齢者の総合評価の件数は、1,491件でした。

退院や転院先に継続的な口腔管理をしていただくために、担当ケアマネージャーや転院先への情報提供の件数は、763件でした。

医科主治医から紹介して頂いていた患者に対して主に以下を行なっています。

- ・当院医科のがん化学療法患者
- ・手術前の周術期口腔機能管理が必要な患者
- ・Bisphosphonate製剤等の薬剤関連顎骨壊死の予防処置が必要な患者
- ・口腔内感染評価が必要な患者
- ・口腔衛生管理および摂食支援を要する入院患者

- ・外来受診が可能だが摂食支援を要する患者

また、う蝕や歯周病等の一般歯科診療を主体とした治療を継続して受ける必要のある患者に対しては、かかりつけ歯科への紹介をしています。しかし、歩行が困難となっている要介護状態の方は、訪問歯科診療が必要であるため、口腔保健連携（鳥取県東部歯科医師会の制度への申し込みを家族が行う）を勧め、歯と義歯の治療や口腔衛生の指導を在宅や施設で専門的に受けることの重要性を伝えています。外来通院は可能であるが、痰の増量やムセの出現など食事で困っている方へは生活支援外来を言語聴覚士、歯科衛生士とともに取り組んでいます。

III 院内保健活動

<口腔ケア保健活動（全病棟）>

毎日13時から各病棟（月曜日：2階東病棟、火曜日：3階東病棟、水曜日：5階東病棟、木曜日：4階東病棟・6階西病棟、金曜日：4階西病棟・6階東病棟）の看護師を対象に口腔ケアを含めた口腔内管理が困難な患者の相談を受け、助言や提案を行った。歯科治療が必要な患者の場合は、医師主治医からの紹介を勧め、歯科治療による口腔内管理に繋げている。

<誤嚥性肺炎予防のための家族および施設者指導（パンフレット指導）>

退院後、誤嚥性肺炎予防や誤嚥性肺炎を繰り返さない目的で自宅退院時の家族指導や施設退院時の施設者へパンフレットを用いて歯科衛生士と言語聴覚士が指導している。

IV 院外活動

- ・社会福祉法人鳥取福祉社会養護老人ホーム鳥取市なごみ苑職員対象研修、鳥取市、2025年6月23日